

テーマ：『 自然の大切さを知り、よりよい環境をつくりだす子の育成 』

横浜市立 高田小学校

Tel. 045-591-0700 担 当 窪田 剛久

者：



■実践内容:

高田小学校では、一昨年度から環境教育に力を入れてきた。児童の思いから出発し、設置するに至ったリサイクルステーションの活用を初め、児童環境委員会による腐葉土置き場の運用、大規模なグリーンカーテン作りに取り組んできた。

今年度は本校の回りに畑が多いこともあり、特に地域から借り受けている畑の栽培活動に重点をおいて取り組んでいる。夏の収穫では、キュウリ、ナス、トマトなど、たくさんの野菜を収穫することができ、子どもと共にその喜びを分かち合うことができた。収穫した野菜の一部を、給食の食材として使っていただいたり、学校の活動に協力していただいている地域の支援者の方々にお渡しするなど、地産地消に結びつく取り組みを展開した。

■実践成果:

リサイクルステーションは、1年生から実際に分別活動に取り組み、児童一人一人がごみの資源化についての意識を高めている。またグリーンカーテンは、植物を栽培するだけではなく、私たちの暮らし方を考えるといった視点にまで意識を高めることが出来た。栽培活動は1年生から6年生まで取り組んでおり、収穫の喜びを実感したり、その植物によってくる生き物と親しんだりして、自然をより近いものとして捉えなおしている。今後は、助成金により耕耘機を購入し、さらに大規模に畑作に取り組み、収穫量を増やすための工夫などを考えさせたい。また取り組みを通して、農業という生産活動に携わる人たちの思いに近づいていきたい。

■実践ポイント:

畑の活用は、ただ野菜を育てるということに終始するのではなく、できるだけたくさんの収穫量を確保するための工夫を、児童と共に考えてきた。また、収穫したものを自分たちで食べるだけでなく、学校の仲間に給食で食べてもらったり、地域の方々に食べていただくことで、収穫の喜びをたくさんの人たちに共有していただいた。たくさんの人に、実際に食べていただくことにより、より大きな成就感をもたせることができ、活動の意欲を持続させることができた。